

## 安城市まちなか賑わい創出プロジェクト

# アンフォーレ市民活動公開相談会を開催しました

～市民活動を充実させる秘訣とは？～

はじめに

問▶アンフォーレ課(☎(76)6111)

平成27年度から始まった「安城市まちなか賑わい創出プロジェクト」は、アンフォーレを核としたまちなかの賑わいを、地域一体となって創出するための取組みです。

この取組みにより生まれた市民活動をもっと魅力的にし、新しいアイデアの発見やさらなる取組みにつながるように、市民活動に関する公開相談会を開催。アンフォーレで活動している4団体に、studio-L 代表の山崎さんからアドバイスをもらいました。



▶アドバイザー 山崎亮氏 (studio-L代表)  
 東北芸術工科大学教授 (コミュニティデザイン学科長)。慶応義塾大学特別招聘教授。博士(工学)。  
 地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。



## 相談団体1 おしゃピク

おしゃれな雰囲気でおしゃピクをしながら、子どもから大人までアート作品づくりを楽しむ活動を企画。商店街との連携や、まちあるきプログラム等を試行錯誤しながら実施している。

### Q. イベントの集客や、資金繰りに悩んでいます

A. 市民活動を始めたのは「集客や資金」を目的とした商売をしたかったからではなかったはず。始めた当初の、自分が楽しむ感覚を大事にしてほしいです。仲間や同志が欲しいのなら、費用という言葉に引っ張られるのではなく、お礼とかお気持ちとか、自分達の概念に合う言葉を選ぶのがいいと思います。

### Q. たくさんの人に参加してもらうには？

A. 何十回もやってもどんな反応があるか見て方針を定めましょう。職業的なアーティストを目指す活動ではないから、じわじわ広げる方法を考えるといいですね。ピクニックは色々な場所で実施することができますから、「えっ、そこで？」と思われる場所でいっぱいやってみてほしい。アンフォーレのエントランスでテーブルをくっつけてやるのもいいのではないのでしょうか。



## 相談団体2 南吉朗読ででむし会

安城で青春時代を過ごした新美南吉の作品の朗読会を実施。アンフォーレのオープニングイベントではピアノ演奏とのコラボ等、朗読に留まらない取組みを行った。

### Q. 公共施設では活動が制約されてしまいます

A. 公共施設を理想の場所にしようとする、思い通りにならないことが多く挫折してしまいます。自分達の技術を高める本拠地は、外(公共施設等)ではなく、プライベートな空間に置くといいです。

### Q. 様々な人たちに興味を持ってもらえる朗読会にするには？

A. 出向いて行って朗読会をやるといいですね。いつもと違う場所でやると、理想の環境にはなりません。クロスプログラミングと言って、自分の分野ではない分野で企画をすると、普段とは違う層を巻き込めます。他流試合として、朗読に興味がない人が集まる場所でやると面白くなりそうですね。

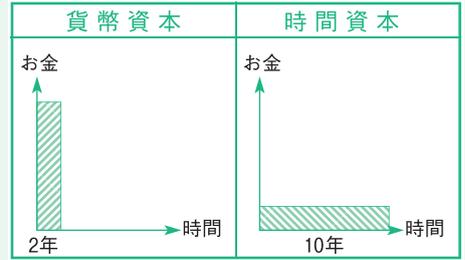
アンフォーレで毎月1日にマルシェを開催している。出店者と面談を行う等、クオリティの高いこだわりのあるマルシェを展開。

**Q. 活動の機会が多くなり、すべてのニーズに応えるのが大変です**

**A.** 自分達が楽しめる範囲で粛々とやっている中で、もし手が足りずにイベントの開催依頼をお断りするなら「今は手いっぱい」と伝えて、相手から「いつならできますか」という答えが返ってくるのを待ってみる。すると、「あそこは3年待ちだ！」なんていうプレミア感が出てくるかもしれません。  
手づくりや地域の特色が出ているものを販売して、ゆっくりと確実に知名度を上げていくと、そのもの自体にストーリーが生まれることになり、長続きします。つくること、話すことを楽しめる人たちと一緒に進めると良いでしょう。

**Q. 連携が広がらず、想いを伝えるのも難しいです**

**A.** まちづくりにおいては、数百万の活動資金を獲得することと同じくらいの情熱を持って、10年からそれ以上の時間、継続して活動していくことを考える必要があります。大事なものはお金ではなく時間。短期間で理想的な連携を実現するには、自分達の想いを届けるためのチラシや拠点づくりにお金(貨幣資本)が必要になりますが、10年で実現させるとなると、実績を重ねながらつながりをつくることできて、活動自体も面白そうに見えるようになり、想いも伝わりやすくなります。  
▲着実に長く続けていくことを目指す



子育て中のパパやママが自分の得意なことを人に披露する等、活躍できる場をつくっている。アンフォーレのオープニングイベントではマルシェを開催。

**Q. どんな活動をしたら子育て世代を盛り上げることができますか？**

**A.** 「子育て世代を盛り上げる」ではなく「子育て世代が盛り上がる」と、自分達を主語にして考えるといいです。自分達の年齢から子育てを終えるまでを逆算して、あと何年続けられるか算出するのも良いかもしれませんね。集客等は気にせず、まずは自分達が楽しんでほしい。



**Q. 仲間を増やし、将来的には商店街や地域のかけ橋にもなりたいです**

**A.** モノやサービスを手に入れる方法には①店等でお金を払って品物を購入する ②店等でお金を払って品物を購入し、信頼に基づいておまけしてもらったり、購入代金以上のサービスを受ける ③近所の人等の知り合いから信頼を介して米や野菜等をもらうの3つがあります。  
一般的に、老後には2000万～5000万円が必要と言われています。しかし、①よりも③を目指せば、老後の安心はお金からではなく、人のつながりから得られます。パパママの活動を通じて、20年後に救われたと言われるかもしれません。本当に信頼できる仲間が5人いれば仲間の輪は広がっていくはずですよ。

**まとめ**

市民活動は仕事ではありません。集客や資金にとらわれず、まずは自分が楽しむことが大切。時間資本を主軸に、時間をかけ、じわじわと同志を増やしていきましょう。そうしてできたつながりが、いざという時に頼れる仲間となり、生活が豊かになります。

アンフォーレは、机一つで活動できるスペースから大人数の催しができるホールまで、幅広い使い方ができ、日々様々な市民活動が行われています。人前で披露したいものがある、市民活動に参加してみたい、何か楽しいことを経験したい等、みなさんの「やりたいこと」をアンフォーレで実現させるために、まずはアンフォーレに足を運んで、様々な人が活動している姿を見てみてください。

※「安城市まちなか賑わい創出プロジェクト」の活動や掲載内容以外の相談内容・アドバイスは、市HPに掲載しています。